



# 「小さな親切」運動

## 鹿児島県だより

できる親切はみんなでしょう、それが社会の習慣となるように

SMALL KINDNESS MOVEMENT



コスモスの花は、「小さな親切」運動のシンボルフラワーです。花言葉は、「まごころ」です。



- 「小さな親切」八か条**
- 1 朝夕のあいさつをかならずしましょう。
  - 2 はっきりとした声で返事をしましょう。
  - 3 他人からの親切を心からうけ入れ「ありがとう」とい  
きましょう。
  - 4 人から「ありがとう」といわれたら「どういたしま  
して」といましょう。
  - 5 紙くずなどをやたらにすてないようにしましょう。
  - 6 電車やバスの中で、お年寄りや赤ちゃんをだいた  
おかあさんには席をゆずりましょう。
  - 7 人が困っているのを見たら手つだってあげましょう。  
他人のめいわくなることはやめましょう。
  - 8

### 【表彰】(敬称略)

- 1 第50回「小さな親切」全国作文コンクール表彰  
〔優良賞〕 神村学園初等部3年 谷川 和  
〔入選〕 池田学園池田小学校2年 葛原 灯 真  
鹿児島市立田上小学校2年 小島 慈  
鹿児島大学教育学部附属小学校5年 石原 佳 夏
- 2 第41回「小さな親切」全国はがきキャンペーン表彰  
〔入選〕 〈一般〉鬼塚 正子 (薩摩川内市)
- 3 「小さな親切」実行章表彰  
福森 弘 (鹿児島市)  
天神町美化クラブ (鹿屋市)  
鹿児島県司法書士会鹿児島支部 (鹿児島市)



### 令和7年度「小さな親切」運動鹿児島県大会報告

今年度の県大会は、12月10日（水）に県社会福祉センター7階大会議室で開催しました。来賓の北園男女共同参画局長（知事代理）にご祝辞をいただき、その後、作文コンクールの審査員として長年にわたりご協力いただいている方々に、感謝を伝え功績を称えるため表彰状の贈呈、公益社団法人「小さな親切」運動本部主催の作文コンクールやはがきキャンペーンの入賞者への表彰状伝達、さらに「小さな親切」実行章の表彰を行いました。

次に、作文コンクールの入賞者4名に「小さな親切」運動にふさわしく、素晴らしい作文を力強く堂々と朗読していただきました。また、はがきキャンペーンの鬼塚様にも、入賞作品「小学生が元気の源」の朗読と中央本部の表彰時に会った方の小さな親切について、ご紹介していただきました。最後に、実行章を受章された「天神町美化クラブ」の上園様には、海岸清掃の活動状況等について写真を交えながら、「素足で歩ける場所」にするための苦労話などをお話していただきました。

この大会の開催にあたり、ご協力いただいたすべての関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。



**【優良賞】**  
**全国作文コンクール入賞作品**  
 「広がれ！レモネードスタンドの輪」  
 神村学園初等部  
 三年 谷川 和

「いらっしやいませ。おいしいレモネードはいかがですか。」  
 わたしは、大きな声でよびかけました。会場の出水そう合医りようセンターで行われていたふれあい健康フェスタは、たくさんのお客さんでにぎわっていました。わたしは今、友達のももかさんといっしょに、レモネードスタンドを開いています。レモネードを売って集めたお金を、小児がんの薬の研究開発に役立ててもらおうためです。

学校の図書室で「しろさんのレモネード屋さん」という絵本を読みました。この絵本を読んで、小児がんという病気があることや多くの子供たちが小児がんをたまたかっていることを知りました。わたしもレモネードスタンドで、少しでも小児がんの子供たちの役に立ちたいと思いました。お母さんに相談すると、「いいことだからやってみたらいいよ。」とさんせいしてくれました。

まずは、ふれあい健康フェスタでお店を開くために、企画書を書いて申し込みました。次に、ももかさんのお父さんの力を借りて試作をしました。初めて飲むレモネードは、うすいレモン色をしていました。レモン

のさわやかなお味が鼻のおくにまでとどいてきました。一口飲んでみると、あまじつぱくとてもおいしかったです。

「トッピングに出水産のレモンを使おうよ。」わたしとお母さんが考えました。グリーンレモンが、レモネードをさらにさわやかにしてくれました。

イベントが近づくと、休みの日にかんばんやメニュー表を作りました。カップにオリジナルのシールもはりました。かんばんには、「小児がんの子供たちやその家族にエールを」という文字をいねいに書きました。

そして当日。わたしたちは、おそろいの黄色いシャツに黄色いベレー帽を身につけて、お店に立ちました。レモンに見たてて、夕までつけたベレー帽は、お母さんの手作りです。

「いらっしやいませ。おいしいレモネードはいかがですか。小児がん支援にご協力ください。」わたしは、大きな声でよびかけました。

「本当においしかったよ。」  
 「レモネードスタンドは、小児がん支援になるんだね。がんばってね。」

お客さんがここにこしながら話しかけてくれました。多めに準備していたレモネードは、あっという間に完売しました。たくさん買ってくれたお客さんの気持ちがとてもうれしかったです。寄付するお金もたくさん集まり、このお金が、小児がん

「小さな親切」作文コンクールは、小学生が素直に親切体験などを書くことによって親切な心を育み、豊かな心情を深めることを主なねらいとして実施しています。たくさんのお応募をお待ちしております。

んの子供たちのために使われることを想像すると、やる気がますます出てきます。会ったことも、顔を見ただけでもない子供たちだけ、しろさんのように明るく生きてほしいなあと思います。わたしはずっとおうえんしていきたくて。



**【入選】**  
**「ぼくのできること」**  
 池田学園池田小学校  
 二年 葛原灯真

土日になると、ぼくはおかあさんから「ミスターハウスキーパー」とよばれて、「いえのしごと」をひきまける。

まずはげんかんのそうじから。ちらばったくつをそろえて、たなにおく。それからはきそうじ。つぎはリビング。ちらかったおもちゃを、もとのばしょにおく。

やつとゆかそうじだ。

「灯真のおかげでとてもきれいになったね。ありがとう。」とおかあさんがほめてくれるし、やも広くなったみたいで、うれしい気持ちになる。

だけど、ぼくが「ミスターハウスキーパー」になるのは土日だけだ。だって、平日は学校があつて、サッカートピアもあるし、しゅくだいもしなきゃいけない。「ミスターハウスキーパー」になるよううは、ぼくにはない。たまに、平日もお

かあさんから「ミスターハウスキーパー」としてのおねがいをされるけれど、

「今日は土曜日じゃないよ。」  
 「今日、ひきうけなかった。」  
 「そんなある日、おかあさんが「かじをしない日が一日だけほしい。」と言った。」

おかあさんは、その一日をまいしゅう金よう日にせつていすると、その日だけは本当になにもしなくなつた。ぼくたちのランドセルからきゅうしよくセットやよこれた体いくふくを出さず、水どうもそのまま、山もりのせんたくももたたまない。こうなると大へんだ。だって、土日げんていのハウスキーパーであるぼくのしごとがふえることになつたからだ。

けれど、おかあさんの「金よう日お休みせん言」をきいてから、ぼくはたくさんしごとをきつて、ぼくのできる。一日かじをしなだけでいえの中はまるでおちばがいつばいの森の中みたいになつて、ぜんぜんおちつかない。しかも、おかあさんだつて休んだ分のかじを土日にしなればならなくなつた。で、らくになつたわけではない。

おかあさんはまい日しごとに行つて、かえつてきてから、よるごはんを作り、あとかたづけをして、学校のじゆんびをして、せんとくものをたたんで、ねるまでずつとごきょうばなしだ。

それなのに、ぼくのなんばいもはたらくおかあさんに「ありがとう」と言つたことなんてほとんどないことに気がついて、なんだかとして

もはずかしくなつた。

これまで自分でやらないでもすんでいて、その分だけかかしてきていたんだ。まだまだぼくは小さくて、できないことややちやだめなことも多い。だから、おかあさんや周りの人がしてくれて、せめて、「ありがとう」の気もちをもちながら自分でできることはきちんやりつづけようと思つた。

**【入選】**  
**「しんせつが力」**  
 鹿児島市立田上小学校  
 二年 小島 慈

「どうぞ。」

電車の中で、わたしははじめ、そう声をかけてもらいました。

春休みに、わたしはかぞくと長さきへりようにいきました。りようこうでは、なんども電車ののることがありました。電車ののるたびに、いつもおおぜいの人がついでにすわることのできる。はじめは、立つていました。でも、すぐにだれかが「どうぞ。」と声をかけて、せきをゆずつてくれるのです。おばさん、お兄さん、いろいろな人が、わたしや、いもうとのけいにせきをゆずつてくれたのです。わたしは、たく

さんあるいてつかれていたので、すわることができてうれしかったです。

そして、わたしたちをきづかづつてくれたことがうれしかったのです。

そのりようこうがおわつてしばらくたつたある日、国分の公園にあそびにいきました。

わたしがすべりだいをすべろうと前にいくと、おなじようにすべりだいをしている小さい子を見つけた。まだ小さいから、ならぶということがわからなかつたのかも、とおもいました。わたしは、ゆうきをだしてその子に「どうぞ。」と言いました。

するとその小さい子は、うれしそうにすべりだいをすべりました。

そのときわたしは、はつとしました。

電車で、せきをゆずつてもらつたとき、とてもうれしかったのです。

すべりだいのじゆんばんをゆずつた小さい子も、うれしうでした。わたしが今したこと、は、きつとしんせつだつたんだ、そうおもつたら、わたしもまた、うれしい気持ちになりました。

しんせつは、してもらつた人だけではなくて、しんせつをした人も、同じようにうれしい気持ちになれるんだなあ、いい気持ちになれるんだなあ、そう気づきました。

しんせつがもつ力は、すごい

んだなあと思つたわたしは、その力をまわりの人へもつたえたいと考えました。そのため、わたしは、どうすればいいのだろう、わたしは、また考えてみました。

そうだ自分がしんせつが力をどんどんついたら、まわりの人にもどんどんつたわつて、みんながいい気持ちにかわつていったらいいなあと思つました。わたしも、みんなも、しんせつが力をつけたら、いつか世界中の人たちが、しんせつが力でみなぎっているかもしれない。そうならいいなあと思つました。

どんどんしんせつが力をつけていこう。わたしは、心の中でそうさげびました！！

**【入選】**  
**「男の子とおばあさん」**  
 鹿児島大学教育学部附属小学校  
 五年 石原佳夏

「うちの孫は、バスに乗つていなかったかな。」

わたしがバスをおりると、かみか黒くて短い、せの小さなおばあさんに声をかけられた。同じ学校の二年生の男の子のおばあさんだ。いつも、男の子がバスをおりてくるのをバス停で待つていて、男の子の話を笑顔で聞きながら、いっしょに歩いて帰つていく。



「小さな親切」運動の資料や入会方法についてのお問合せは、県本部事務局へお願いします。(ホームページにもあります) 学校・PTA・企業・公民館・行政諸団体等へ広くご回覧ください。

「このバスには、乗っていませんでしたよ。」とわたしは答えました。

おばあさんは、「あら、そうだったのね。ありがとう。」と言いい、出発したバスを心配そうに見ていた。

この日は、学校で保護者の集まりがあり、全児童が同じ時間に下校した。わたしはいつもより早く帰れるので「帰ったら何をしようかな。」と、少しウキウキしていた。その上、いつもよりバスに乗る生徒が多かったため、おばあさんに聞かれるまで、男の子がバスに乗っていないことに、気が付かなかった。

その男の子は、目がくりんとした、人なつっこい小さな子だ。一年ほど前に、わたしがバスをおりると、先におりていた男の子から、「おばあちゃんがおむかえに来ていないから、家までいっしょに行つて。お願い。」と、たのまれたことがある。ほとんど話したこともないわたしに、話しかけてきたことにおどろいたが、わたしはうなずき、いっしょに歩いた。歩いていると、向こうの方からその子のお母さんが走ってきて、「ごめんね。どうもありがとう。」と言ってその子連れ帰っていった。

そんなことがあったので「あの子、知らない人についていけないかな。次のバスが来るまで一時間近く待つけれど、大丈夫かな。」と心配になった。わたしは、家まで走って帰り、学

校にいる母に電話をした。わたしは、息が切れて上手く話せなかったが、母は、「分かった。その子がお母さんをさがして、その子がバスに乗っていないかったことと、おばあさんが心配していたことを伝えるね。」と言って、電話を切った。わたしは、少しほっとしたが、不安で何も手につかなかった。

母は、学校から帰って来るとすぐに言った。  
「佳夏からの電話の後、すぐに男の子のお母さんをさがして話をしたよ。」あの子は、学校でお母さんを待っていたらしいよ。おばあさんにも連絡するとついでにわたしは、ほっとして力がぬけた。

後日、バス停でおばあさんに会った時に、「この前はありがとうね。お母さんに連絡してくれただね。ありがとう。」と、やさしい笑顔でお礼を言われた。わたしは、少し気はすかしくなり軽く頭を下げ、小走り家まで帰った。

それから、一年生と同じバスに乗る日は、あの男の子が乗っているか、確にんするようにしている。男の子がバスをおりて、おばあさんと二人で歩く後ろすがたを見ると、帰り道のわたしの足取りは軽くなる。



ごあいさつ



代表 布袋 嘉之

「小さな親切」の積み重ねが、思いやりあふれる温かな社会づくりにつながる。会員をはじめ多くの皆様方から、「小さな親切」運動の推進に御支援・御協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

本県における「小さな親切」運動は、県本部が発足してから51年という長い歴史を重ねてきておりますが、時代の変遷とともに運動の広がりや周知など難しい状況にあるのも事実です。

しかしながら、私たち一人ひとりが他者を思いやり、人と人とのつながりを大切にするといい「小さな親切」運動の精神・原点は、時代を超えて受け継がれていくべきものと考えます。

鹿児島県では毎年、児童・生徒や社会人の皆さんが「親切」について感じたり考えたりしたことを綴った作文・エッセイをお寄せいただくとともに、その表彰、また、「親切」を実践された方々に対する実行章の贈呈などを行っております。

皆様の思いや行動が、「小さな親切」運動の輪をつなげていくきっかけになることを期待しております。

これからも、会員をはじめ多くの皆様方の一層の御支援・御協力をいただきながら、運動の灯を絶やさずことなく、心豊かな子供達を育み、思いやりあふれる温かな社会を目指してまいります。

変わらぬ御支援・御協力をいただきますようよろしく申し上げます。

「小さな親切」運動新規会員募集

(1) 「小さな親切」運動鹿児島県本部の会員制度

会 員	個 人 会 員	年会費	3,000円 以上
	団 体 会 員	年会費	1人につき 600円
賛助会員	団 体 ・ 企 業	年会費	5,000円 以上
学校会員	小 ・ 中 ・ 高 校	年会費	10,000円

※ 入会された会員には、会員バッジ・情報誌「小さな親切」（季刊）をお送りします。

(2) 入会手続

入会申込書を「小さな親切」運動鹿児島県本部事務局へ送り、所定の会費を払い込むことで会員になります。入会申込書受理後、会費振込用紙を送付いたします。

なお、入会申込書は、ホームページからダウンロードできます。

(<http://www.kaken-shakyo.jp/shinsetu/kindindex.html> 「小さな親切」運動鹿児島県本部)

鹿児島県だよりの制作費の一部に鹿児島県共同募金会の配分金を充当させていただきます。

